

# 家庭ごみ有料化の実施方法について（案）

## 1 手数料を徴収するごみ

「燃やせるごみ」、「燃やせないごみ」



対象外：「資源物」

（缶、びん、ペットボトル、新聞類・その他紙類・布類、蛍光管等）

ごみ減量・リサイクルを推進するためには、「燃やせるごみ」や「燃やせないごみ」の排出量を減らすとともに、「資源物」の回収量を増やす必要があります。

このことから、手数料を徴収するごみは、「燃やせるごみ」と「燃やせないごみ」とし、「資源物」は対象外とすることが妥当であると考えます。

## 2 手数料徴収方法

「指定ごみ袋方式」

手数料の徴収方法は、制度に対する市民の混乱が少なく、収集時に容易に見分けられ作業効率が低下しない等の理由から「指定ごみ袋方式」が妥当であると考えます。

ごみ袋の種類をどのようにするか（何種類とするか）

資料

家庭ごみ処理手数料の比較（中核市）

料金体系をどのようにするか

「単純比例型」、「多段階比例型」、「一定量無料型」、「負担補助組合せ型」、「定額制従量制併用型」

資料

家庭ごみ有料化の料金体系について

## 3 ごみ処理負担額（手数料額）

資料

他都市における手数料額の状況について

資料

ごみ減量・リサイクルに関する市民意識調査結果（抜粋）

資料

一世帯あたりの負担額について（シミュレーション結果）

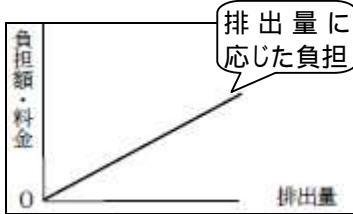
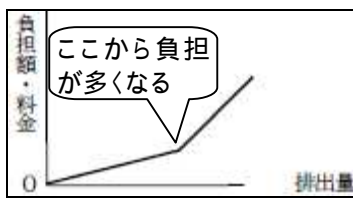
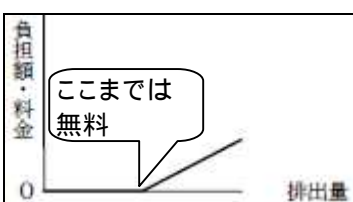
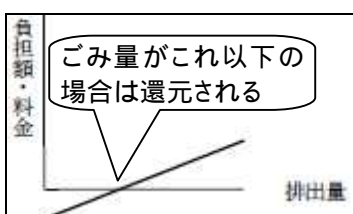
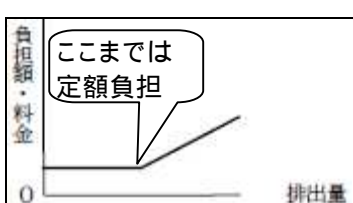
# 家庭ごみ処理手数料の比較（中核市）

資料

	料金の徴収方法と理由	料金水準
函館市	1. 指定有料袋 2. シール  市民にわかりやすい単純な方法であること 収集時に確認しやすい方法であることから指定有料袋を基本とし、袋にいれることが困難なものはシールを使用することとしている	規則で定める指定ごみ袋1枚により排出されたもの 5L袋 10円/枚 10L袋 20円/枚 20L袋 40円/枚 30L袋 60円/枚 40L袋 80円/枚  ごみ処理券1枚を貼り付けてひとまとめにして排出されたもの 80円
旭川市	1. 指定有料袋 2. シール  ごみを出した量に応じて公平に費用負担できるため。 指定袋は収集時に確認しやすい方法であり、シールは指定袋に入りきらないものに対応するため	【可燃ごみ、不燃ごみ】 5リットル 10円/枚 10リットル 20円/枚 20リットル 40円/枚 30リットル 60円/枚 40リットル 80円/枚  (可燃ごみ手数料シール) 80円/枚 (不燃ごみ手数料シール) 80円/枚 (粗大ごみ手数料シール) 650円/枚 (特定家庭用機器用シール) 2,800円/枚
長野市	1. 指定有料袋  8年当時、家庭ごみ用指定袋については、可燃ごみ用120枚/年、不燃ごみ用24枚/年を各世帯に地区を通じて無料配布しており、指定袋制度が定着していたため。 有料化は指定袋制度の延長線上にあったため	平成21年9月以前（改正前） 可燃ごみ...大(30リットル)30円/枚 不燃ごみ...大(30リットル)30円/枚 プラスチック製容器包装...大(30リットル)30円/枚 3種類合わせて200枚までは袋の実費価格で購入。 201枚以上240枚までは上記金額で購入 ----- 平成21年10月以降（改正後） 【可燃ごみ】 特大(40L用)・・・袋の代金 + 400円（10枚入） 大（30L用）・・・袋の代金 + 300円（10枚入） 小（20L用）・・・袋の代金 + 200円（10枚入） 特小(10L用)・・・袋の代金 + 100円（10枚入） 【不燃ごみ】 大（30L用）・・・袋の代金 + 300円（10枚入） 小（20L用）・・・袋の代金 + 200円（10枚入）
下関市	3. その他  有料指定袋と納付券の併用	【燃やせるごみ】 大（45L） 45円 中（30L） 30円 小（18L） 18円 特小(10L) 10円  【びん・缶、ペットボトル、プラスチック製容器包装】 大（45L） 20円 中（30L） 15円 小（18L） 10円  【燃やせないごみ、有害ごみ】 45L以内の透明又は半透明の袋に100円の納付券を貼付  【粗大ごみ】 品目により、300円、500円、700円、1,000円の納付券を貼付

	料金の徴収方法と理由	料金水準
高松市	<p>1.指定有料袋(定期収集) 2.シール(粗大ごみ)</p> <p>定期収集 ごみ袋の延長線上であり、収集時に確認しやすいため指定収集袋とした</p> <p>粗大ごみ 大きさや重さ等を考慮するとともに1品目ごとに料金を設定しているため、排出物に直接添付できるシール制とした</p>	<p>【粗大ごみ】 品目によって1品 500円から2,000円</p> <p>【可燃ごみ, 破碎ごみ】 大(40ℓ) 40円/枚 中(30ℓ) 30円/枚 小(20ℓ) 20円/枚 特小(10ℓ) 10円/枚</p>
久留米市	<p>1.指定有料袋</p>	<p>【燃やせるごみ】 (大・30ℓ) 25円/枚 (小・18ℓ) 15円/枚</p> <p>【燃やせないごみ】 (大・30ℓ) 25円/枚 (小・18ℓ) 15円/枚 いずれも10枚梱包で販売(消費税込み)</p>
熊本市	<p>1.指定有料袋</p> <p>多くの自治体で導入されているものであり、市民のごみ排出の手間が現在とあまり変わらない点、手数料の徴収もれがない点、分別を促進できる点などを考慮</p>	<p>【燃やすごみ】 45L 35円/枚 30L 23円/枚 15L 12円/枚 5L 4円/枚</p> <p>【埋立ごみ】 45L 35円/枚 30L 23円/枚 15L 12円/枚</p>
宮崎市	<p>1.指定有料袋</p> <p>指定袋制による徴収は排出者には分かりやすい。 また、ごみ減量により使用枚数(手数料)を減らせるため、ある程度の減量効果も期待できる</p>	<p>【燃やせるごみ】 大 (40L相当) 40円/枚 中 (30L相当) 30円/枚 小 (20L相当) 20円/枚 特小(10L相当) 10円/枚</p> <p>【燃やせないごみ】 大 (40L相当) 40円/枚 中 (30L相当) 30円/枚 小 (20L相当) 20円/枚 特小(10L相当) 10円/枚</p>

## 「家庭ごみ有料化の料金体系について」

<p>排出量単純比例型</p> 	<p>排出量に応じて、排出者が手数料を負担する方式。 単位ごみ量当たりの料金水準は、排出量にかかわらず一定である。(均一従量制)</p>	<p>(メリット) 制度が単純で分かりやすい。 排出者毎の排出量を管理する必要がないため、制度の運用に要する費用が安価である。</p>	<p>(デメリット) 料金水準が低い場合には、排出抑制につながらない可能性がある。 ごみを排出する全ての人に負担が生じる。</p>
<p>排出量多段階比例型</p> 	<p>排出量に応じて排出者が手数料を負担するもので、かつ、排出量が一定量を超えた段階で、単位ごみ量当たりの料金水準が引き上げられる方式。(累進従量制)</p>	<p>(メリット) 排出量が多量である場合の料金水準を高くすることにより、特に排出量が多量である者による排出抑制が期待できる。</p>	<p>(デメリット) 制度が分かりにくい。 排出者毎の排出量を把握する費用が必要となるため、制度の運用に要する費用が増す。</p>
<p>一定量無料型</p> 	<p>排出量が一定量となるまでは手数料が無料であり、排出量が一定量を超えると排出者が排出量に応じて手数料を負担する方式。</p>	<p>(メリット) 制度が分かりやすい。 一定の排出量以上のみを従量制とすることで、特にその量までの排出抑制が期待できる。</p>	<p>(デメリット) 費用負担が無料となる一定の排出量以下の範囲内で排出量を抑制するインセンティブ(動機付け)が働きにくい。</p>
<p>負担補助組合せ型</p> 	<p>排出量が一定量となるまでは手数料が無料であり、排出量が一定量を超えると排出者が排出量に応じて一定の手数料を負担する一方、排出量が一定量以下となった場合に、市町村が排出抑制の量に応じて排出者に還元する方式。</p>	<p>(メリット) 一定の排出量以上のみを従量制とすることで、特にその量までの排出抑制が期待できる。</p>	<p>(デメリット) 制度が分かりにくい。 排出者毎の排出量を把握する費用が必要になるため、制度の運用に要する費用が増す。</p>
<p>定額制従量制併用型</p> 	<p>一定の排出量までは、手数料が排出量にかかわらず定額であり、排出量が一定の排出量を超えると排出量に応じて一定の手数料を負担する方式。</p>	<p>(メリット) 制度が分かりやすい。 一定の排出量以上のみを従量制とすることで、特にその量までの排出抑制が期待できる。</p>	<p>(デメリット) 費用負担が定額となる一定の排出量以下の範囲内で排出量を削減するインセンティブ(動機付け)が働きにくい。</p>

(出所) 環境省「一般廃棄物処理有料化の手引き」

(落合由起子(1996)『家庭ごみ有料化による減量化への取り組み - 全国 533 都市アンケートと自治体事例の紹介 -』(株)ライフデザイン研究所、pp.13-15)

## 徴収方法の採用実績

全国で一般廃棄物処理の有料化を導入している 69 市のうち、59 市が手数料を上乗せして市町村の指定ごみ袋を販売する方式を採用している。また、指定ごみ袋とシールの併用は、通常は指定ごみ袋を利用し、指定ごみ袋に入らない大きさや形を有するごみの排出の場合にはシール利用としている場合である。

シールの採用は、手数料の料金体系が一定量無料型や補助組合せ型の場合に採用されている。これは、シールは小さくて軽量であり、各世帯への配布や各世帯での保管が比較的容易であるためと考えられる。

なお、この他にも、納入通知書や現金といった手数料の徴収事例があり、直接持込みの場合等に採用されている。

表 3-3-2 手数料の料金体系及び徴収方法毎の採用市数  
(単位：市数)

徴収方法 手数料体系	指定ごみ袋 (うち指定ごみ袋 とシールの併用)	シール	その他 (納入通知 書、現金等)	総計
排出量単純比例型	46 (11)	0	0	46
排出量多段階比例型	5 (1)	0	0	5
一定量無料型	4	3	2	9
負担補助組合せ型	1	1	0	2
定額制従量制併用型	1	0	1	2
その他	2 (1)	1	2	5
総計	59 (13)	5	5	69

(出所) 環境省「自治体のごみ処理有料化施策に関するアンケート調査」(平成 18 年 10 月実施) (参考資料 2 参照)

(出所) 環境省「一般廃棄物処理有料化の手引き」

中核市及び県内市町の状況

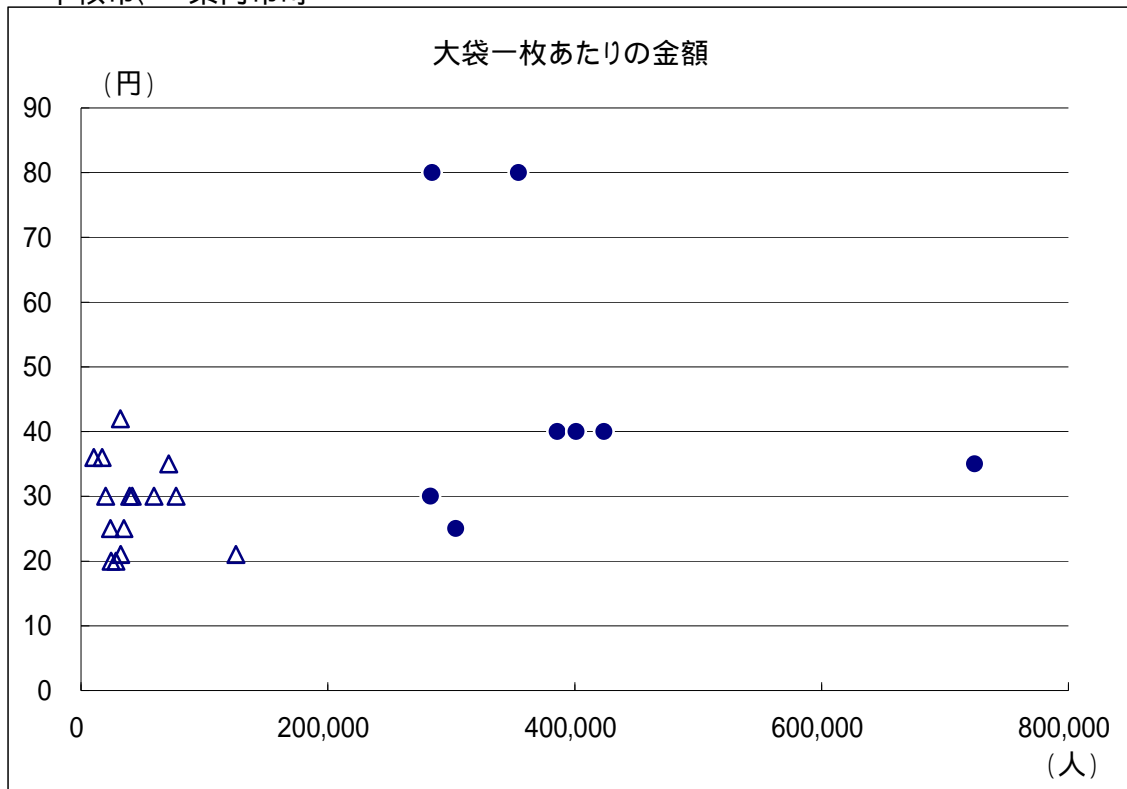
市名	人口	大袋1枚	
中核市	函館市	284,546 人	80 円
	旭川市	354,444 人	80 円
	長野市	385,765 人	40 円
	下関市	283,068 人	30 円
	高松市	423,855 人	40 円
	久留米市	303,595 人	25 円
	熊本市	724,067 人	35 円
	宮崎市	401,255 人	40 円

人口はH23.4.1現在

市名	人口	大袋1枚	
県内市町	別府市	125,385 人	21 円
	日田市	70,940 人	35 円
	佐伯市	76,951 人	30 円
	臼杵市	41,469 人	30 円
	津久見市	19,917 人	30 円
	竹田市	24,423 人	20 円
	豊後高田市	23,906 人	25 円
	杵築市	32,083 人	21 円
	宇佐市	59,008 人	30 円
	豊後大野市	39,452 人	30 円
	由布市	34,702 人	25 円
	国東市	32,002 人	42 円
	日出町	28,221 人	20 円
	九重町	10,421 人	36 円
	玖珠町	17,054 人	36 円

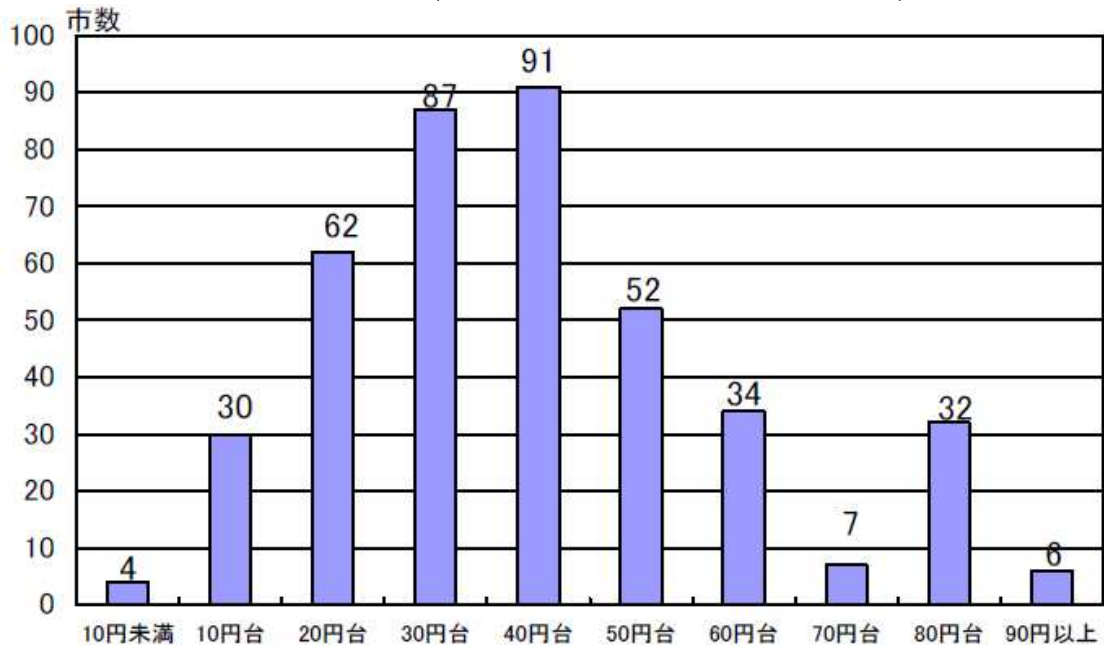
大分市、中津市、姫島村を除く  
人口はH22年国勢調査結果による

中核市、 県内市町



## 単純比例型採用市における状況(全国)

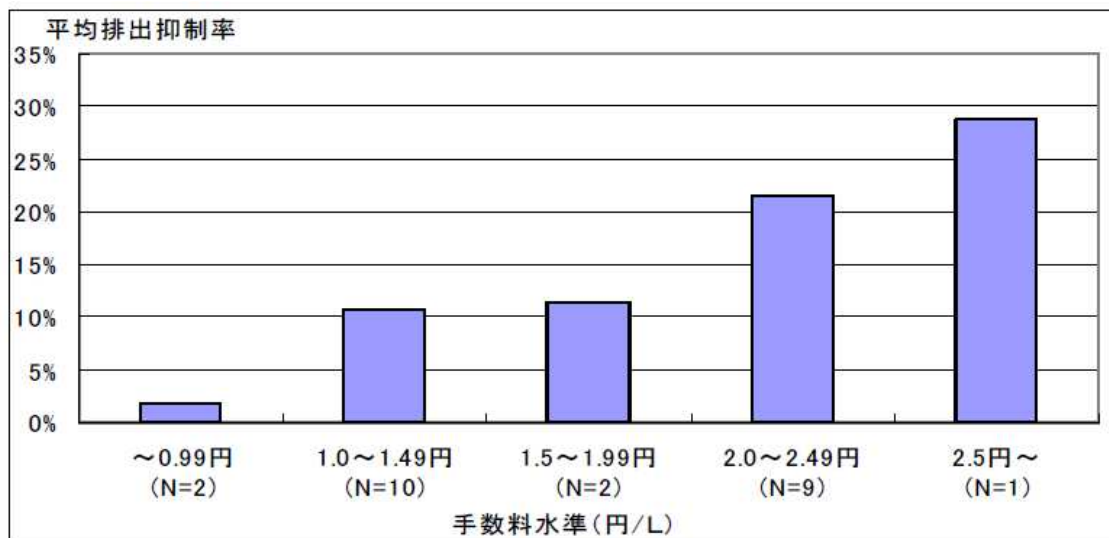
価格帯別都市数(単純比例型405市・大袋1枚の価格)



注) 2012年1月現在 (出所:東洋大学経済学部教授 山谷修作ホームページ)

## 手数料の料金水準と排出抑制効果

燃やすごみの料金水準と平均排出抑制率



(注1) 廃棄物排出抑制率 = (導入2年前(g/人・日) - 導入2年目(g/人・日)) / 導入2年前(g/人・日)

(注2) 平均排出抑制率: 各手数料の料金水準区分(~0.99円、1.0~1.49円、1.5~1.99円、2.0~2.49円、2.5円~)に該当する排出抑制率の平均

(注3) 容積当たりの料金単価がごみ袋の大きさによって異なる場合には、一番大きいごみ袋の容積当たりの料金単価を採用

(注4) アンケート調査(有料化実施市町村等127市町村を対象に実施)によって排出量データ(g/人・日)を得られた24市町村が集計対象

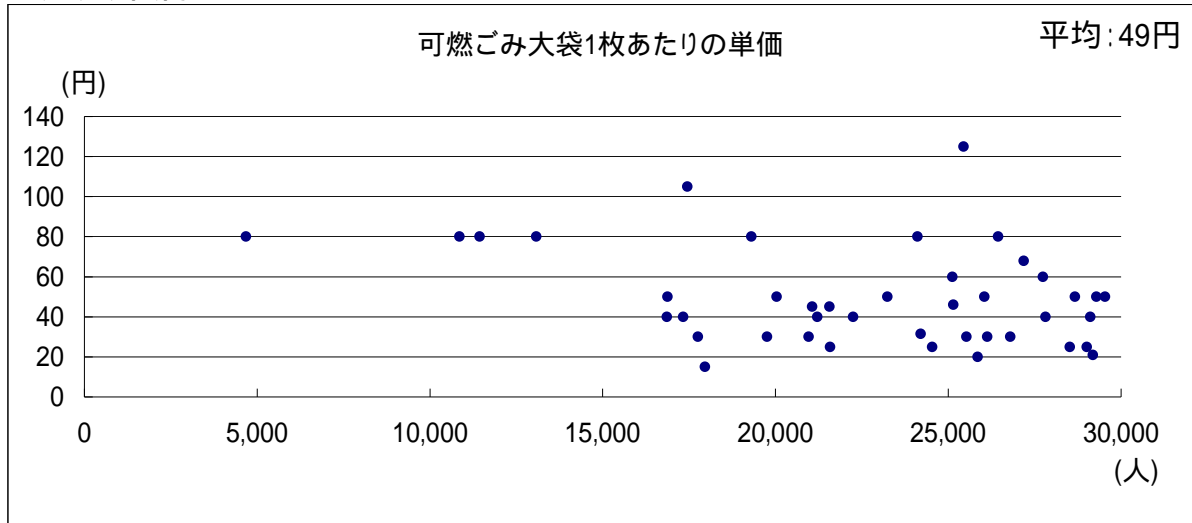
(出所) 環境省「自治体のごみ処理有料化施策に関するアンケート調査」(平成18年10月実施)



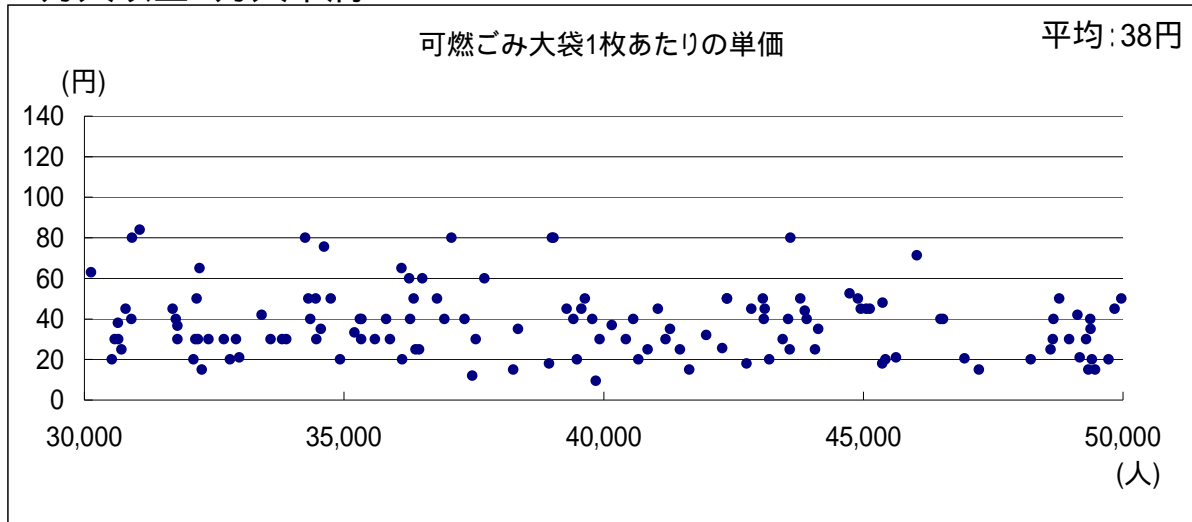
# 人口別手数料額の比較（散布図）

単純比例型採用市(405市)を対象とした

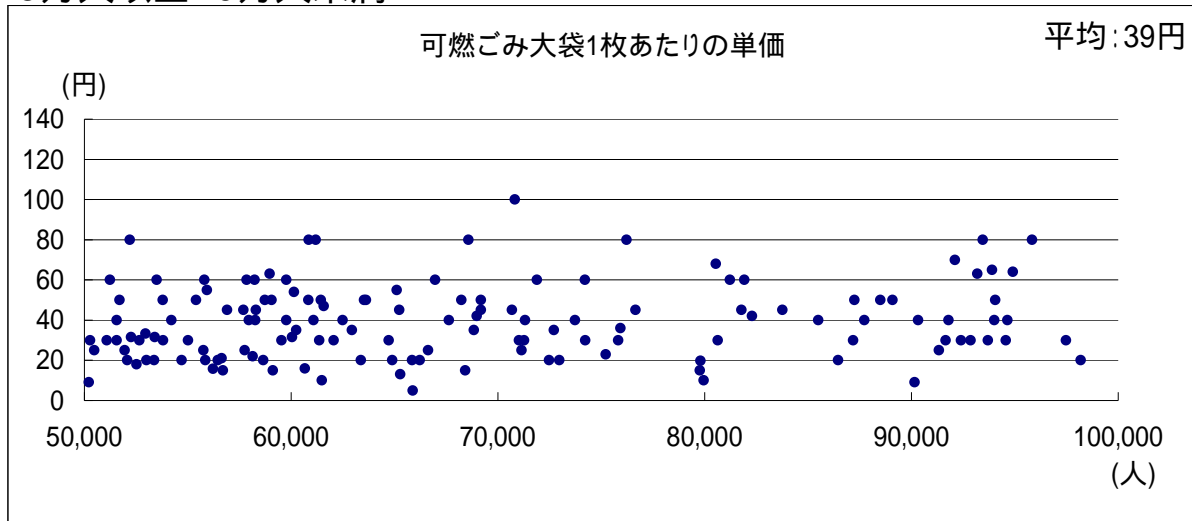
## 3万人未満



## 3万人以上5万人未満



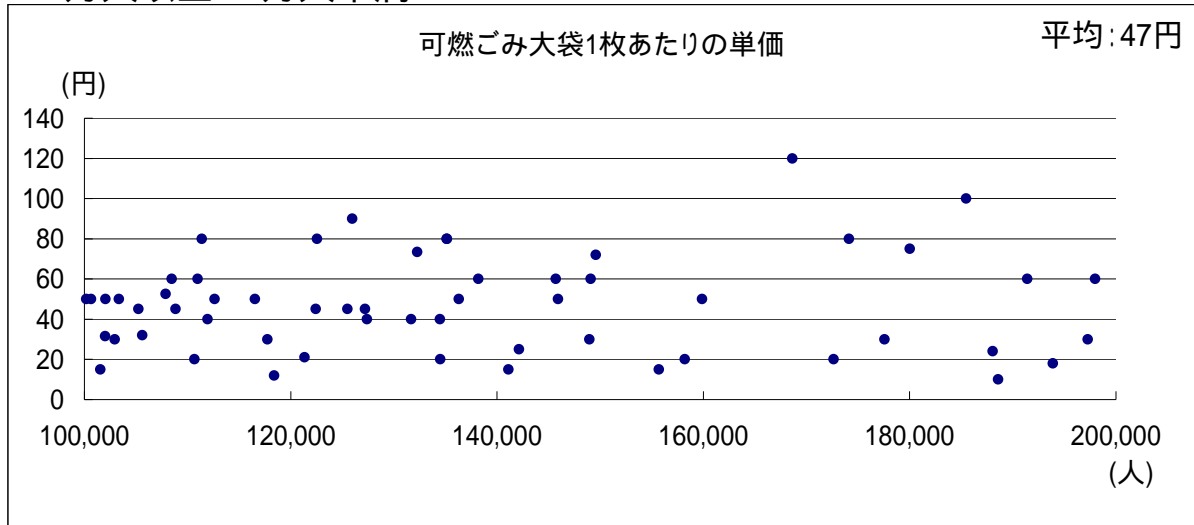
## 5万人以上10万人未満



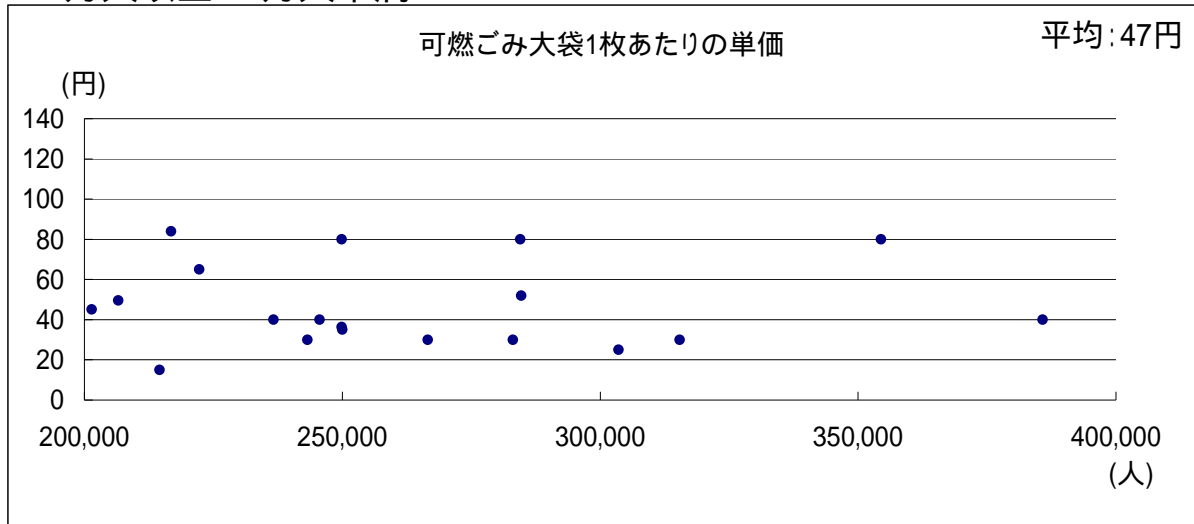
参考: 東洋大学教授 山谷修作「全国都市家庭ごみ有料化実施状況の県別一覧」(2012年1月4日現在)



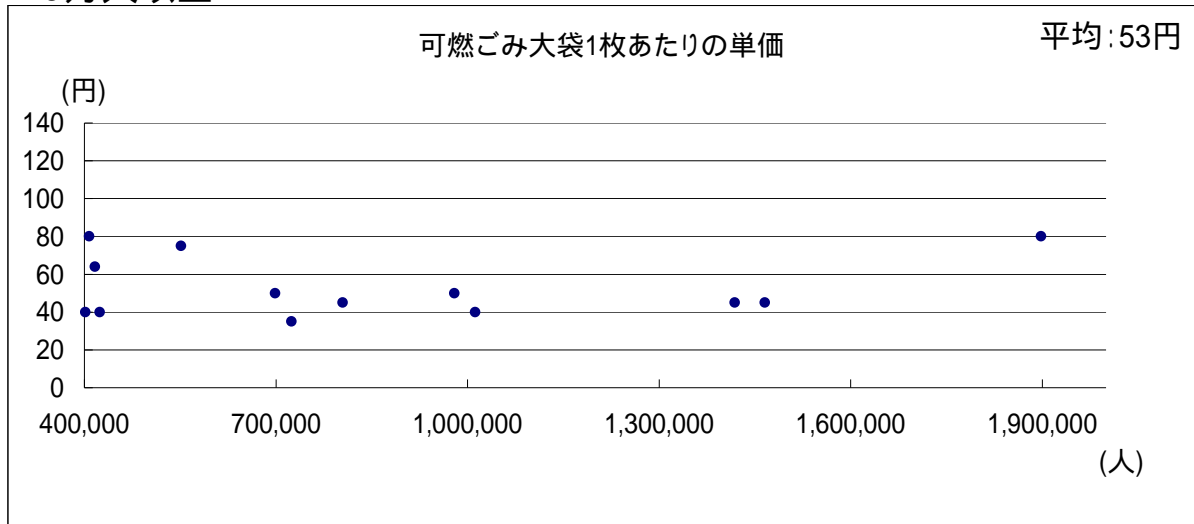
### 10万人以上20万人未満



### 20万人以上40万人未満



### 40万人以上



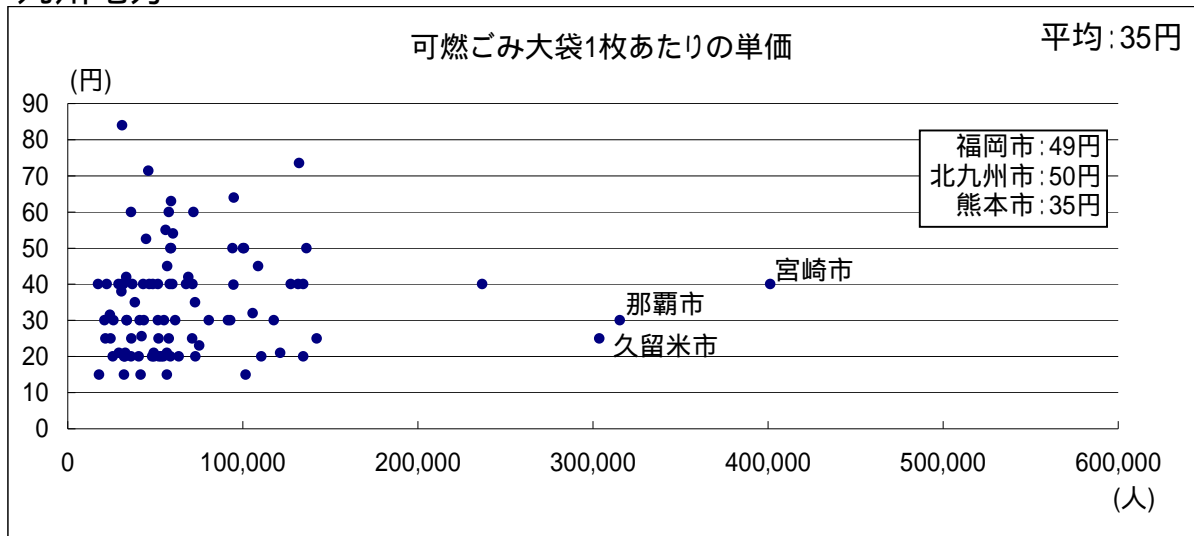
参考:東洋大学教授 山谷修作「全国都市家庭ごみ有料化実施状況の県別一覧」(2012年1月4日現在)

# 地方別手数料額の比較（散布図）

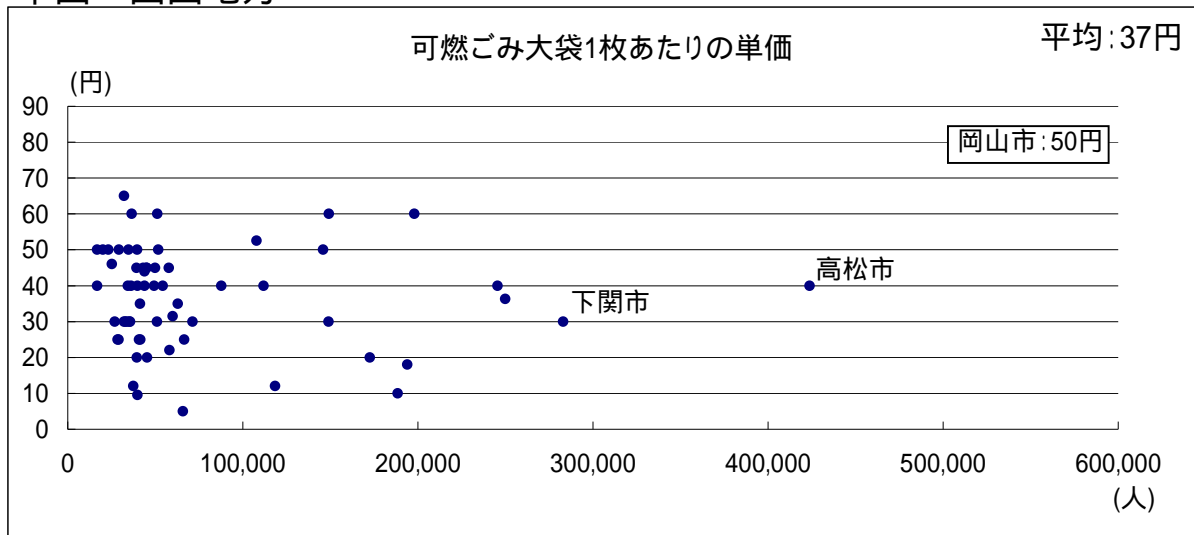
資料 - 3

単純比例型採用市(405市)のうち60万人以下の市を対象とした

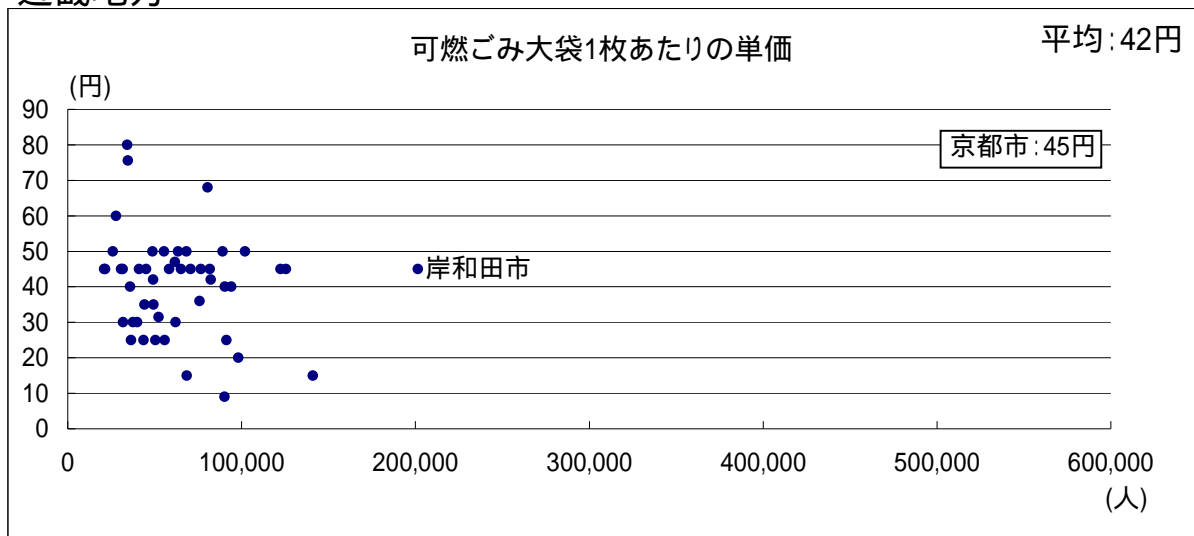
## 九州地方



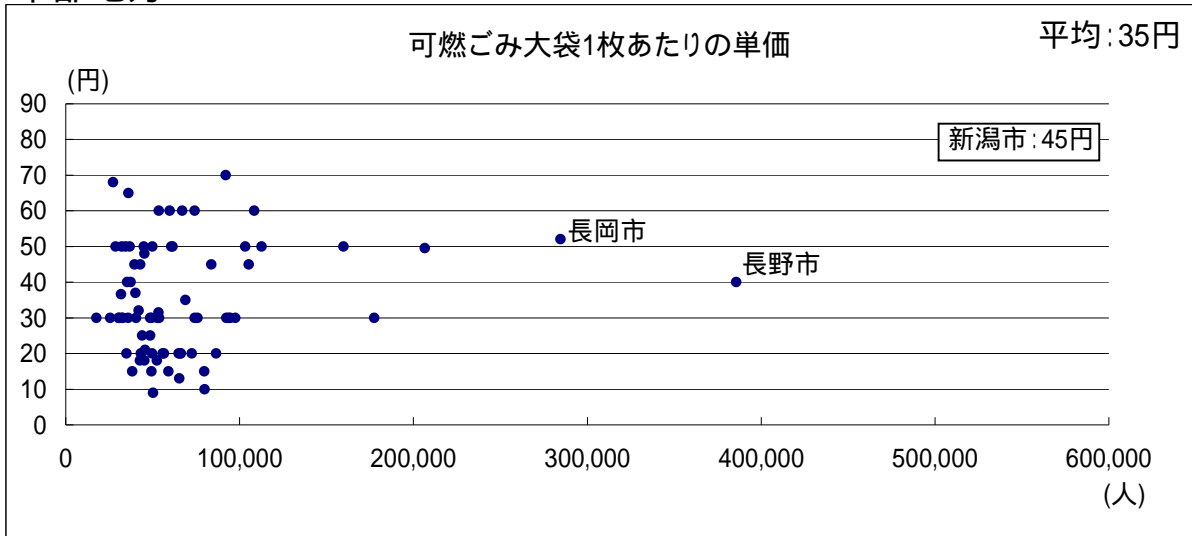
## 中国・四国地方



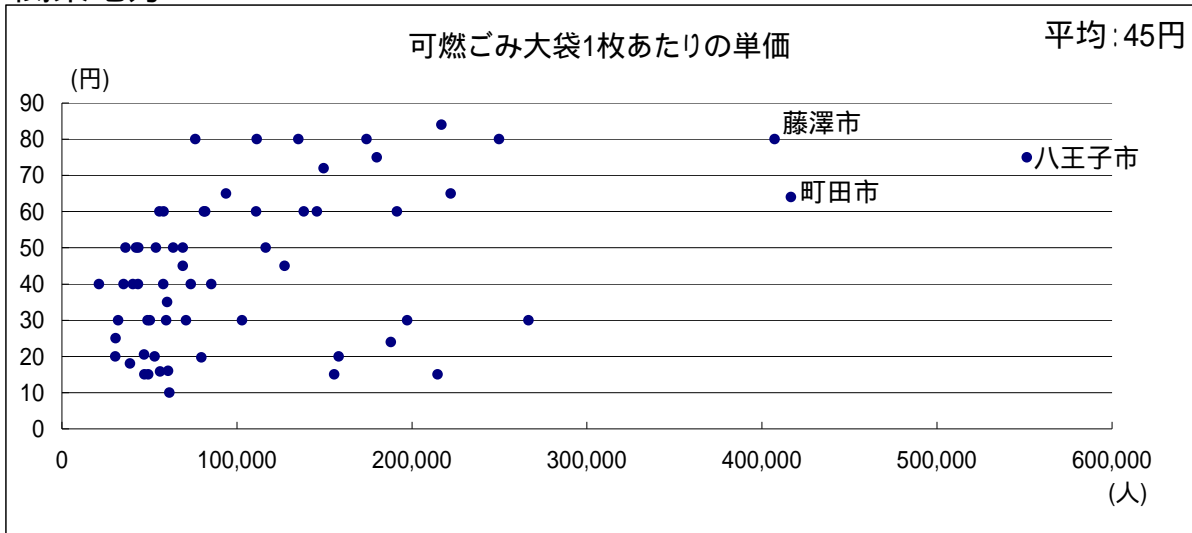
## 近畿地方



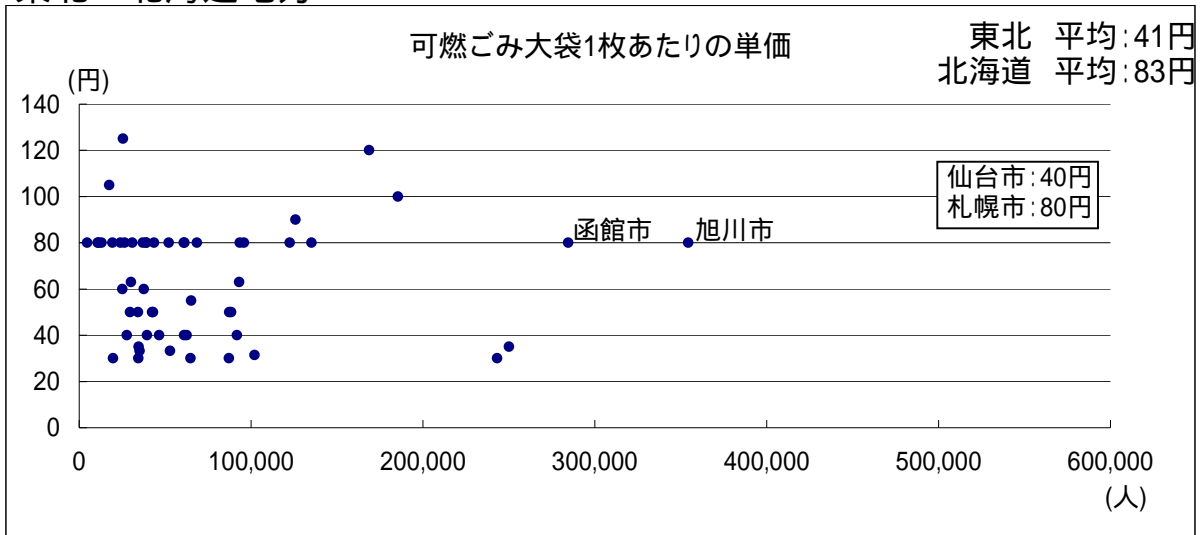
### 中部地方



### 関東地方



### 東北・北海道地方



## ごみ減量・リサイクルに関する市民意識調査結果（抜粋）

平成21年12月実施

問30 家庭ごみの有料化をする場合、あなたにとって、ごみを少なくしようと意識し、かつ経済的に負担してもよいと思われる月額は一世帯あたり、いくらぐらいが適当だと思いますか。次の中から当てはまる番号1つに印をつけてください。

家庭ごみの有料化で支払う料金としては、月額「300円程度」が40.2%と最も多く、次いで「500円程度」が24.3%であった。また「750円以上」は5.6%であった。半数以上の人は月額300～500円程度の負担が妥当であると考えていると思われる。

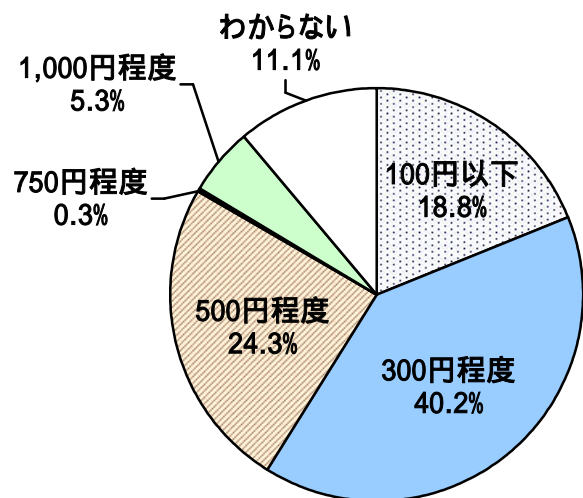
〔属性別〕

性別では男女とも80%近くが500円以下であれば負担してもよいとしている。年齢別では80歳以上の人の100%が月額100～300円以下であれば負担してもよいとしている。

表4-5-3 家庭ごみの有料化で1ヶ月に負担出来る料金（全体）

項目	回答者数	回答者に対する割合（累積）
100円以下	71	18.8% (18.8%)
300円程度	152	40.2% (59.0%)
500円程度	92	24.3% (83.3%)
750円程度	1	0.3% (83.6%)
1,000円程度	20	5.3% (88.9%)
わからない	42	11.1% (100.0%)
合計	378	100.0%

図4-5-7 家庭ごみの有料化で1ヶ月に負担出来る料金（全体）



有効回答数 = 378

図 4 - 5 - 8 家庭ごみの有料化で1ヶ月に負担出来る料金（性別）

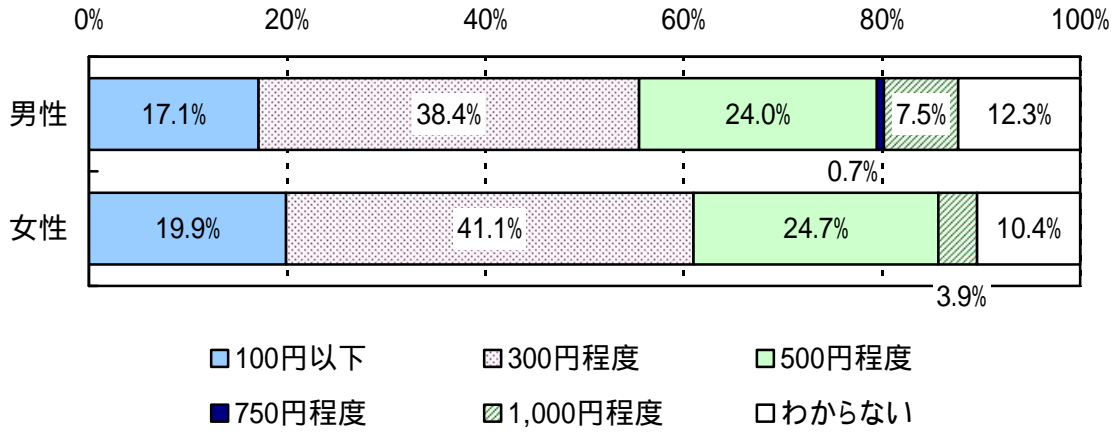
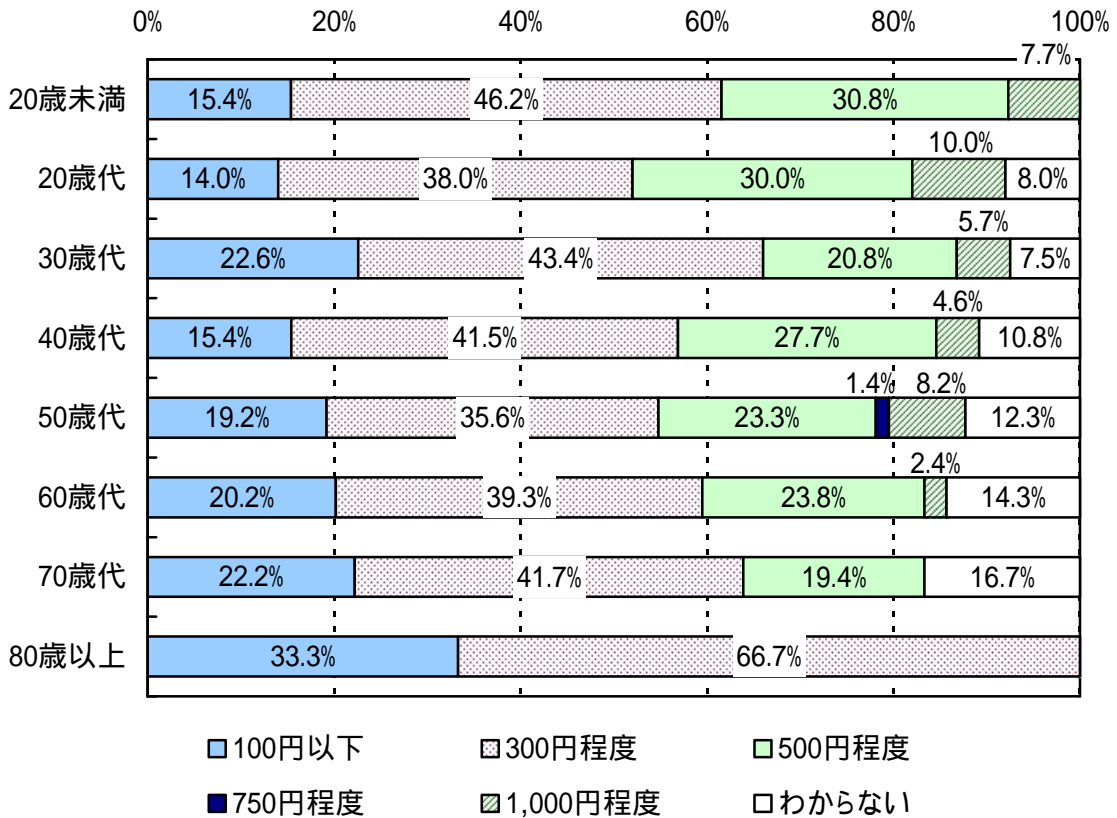


図 4 - 5 - 9 家庭ごみの有料化で1ヶ月に負担出来る料金（年齢別）



問35 現在、あなたは1ヶ月にどのくらいごみ袋を使用していますか。

ごみ袋の使用については、「使用している」が95.1%とほとんどの人がごみ袋を使用している。使用のごみ袋の併用状況としては、45リットルの袋のみ(市販ごみ袋45L程度)が最も多く64.8%、次いで45リットルと10リットル以下(レジ袋)の袋併用が22.5%であった。1ヶ月に出るごみの量としては、400リットル(市販ごみ袋45Lを9枚程度)以下が33.0%と最も多く、次いで600~1000リットル(市販ごみ袋45Lを15~22枚程度)の31.8%であった。使用しているごみ袋の種類は45リットルの袋が91.6%で、次いで10リットル以下の袋が28.0%であった。

表4-5-8 ごみ袋の使用について

項目	回答者数	回答者に対する割合
使用している	923	95.1%
使用していない	48	4.9%
合計	971	100%

表4-5-9 使用のごみ袋の併用状況

項目	回答者数	回答者に対する割合
10リットル以下の袋のみ	50	5.5%
15~30リットルの袋のみ	17	1.9%
45リットルの袋のみ	593	64.8%
45リットルと10リットル以下の袋併用	206	22.5%
45リットルと15~30リットルの袋併用	31	3.4%
45リットルと60リットル以上の袋併用	8	0.9%
60リットル以上の袋のみ	10	1.1%
合計	915	100%

## 一世帯あたりの負担額について（シミュレーション結果）

【燃やせるごみ・燃やせないごみ】 世帯数 206,609 世帯 (H24.2月末)

年間 収集回数	1回に使用 する枚数	年間 必要枚数	1袋(大袋) あたりの料金	月額	年額	歳入
116回	1枚	23,966,644枚	5円	48円	580円	119,833,220円
			10円	97円	1,160円	239,666,440円
			15円	145円	1,740円	359,499,660円
			20円	193円	2,320円	479,332,880円
			25円	242円	2,900円	599,166,100円
			30円	290円	3,480円	718,999,320円
			35円	338円	4,060円	838,832,540円
			40円	387円	4,640円	958,665,760円
			45円	435円	5,220円	1,078,498,980円
			50円	483円	5,800円	1,198,332,200円
			55円	532円	6,380円	1,318,165,420円
			60円	580円	6,960円	1,437,998,640円
			65円	628円	7,540円	1,557,831,860円
			70円	677円	8,120円	1,677,665,080円
75円	725円	8,700円	1,797,498,300円			
80円	773円	9,280円	1,917,331,520円			

「家庭ごみ有料化」にかかる経費(例)

高松市(338,000人、141,400世帯)収支見通し

(H17年度推計)

収集袋の使用数 年間あたり、平均世帯で中袋(30L)を116枚使用

収入金額	492,072,000円
・指定袋製造費	82,012,000円 (5円/枚 × 116枚 × 141,400世帯)
・在庫管理委託料	9,000,000円
・配送委託料	
・指定袋取扱い委託料	
経費合計	142,679,560円
収入金額 - 経費合計	349,392,440円 (収入金額に占める割合 71%)

(参考:高松市定期収集家庭ごみ有料化計画)